

平成29年度 下関商業高等学校 学校評価書(定時制) 校長(木村浩司)

1 学校教育目標
「就職も進学も強い 元気下商」～生徒が主役の学校づくり・未来に富める人づくり～ ①社会に貢献できる人間力の育成 ②授業の充実と社会人基礎力の育成 ③部活動・学校行事等の充実 ④保護者・地域との連携強化と積極的な情報発信

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)
① 素直な生徒が多く、落ち着いた態度で学校生活を送っているが、やや社会性に乏しい面が見受けられる。 ② 授業にはまじめに取り組むが、基礎学力の定着にはさらなる時間を要する。学習意欲のさらなる向上と家庭における学習習慣の確立が求められる。 ③ 将来の進路についてのんびりと構えている生徒が多いため、自らの進路について、より主体的に考える姿勢を育む必要がある。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題
① 4年間を見通したキャリア教育の推進 ② 保護者・地域との連携強化と積極的な情報発信 ③ 社会人基礎力の定着と資格取得の奨励 ④ 生徒一人ひとりに寄り添う教育相談体制の充実

4 自己評価					5 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等 評価
学習指導	わかる喜び・成長の実感を味わえる授業の実践	・朝学(始業前に行う漢字・基礎計算・一般常識についての問題演習)を週3回実施し、各教科の学習に必要な基礎学力を育む。 ・学力差に対応した授業づくりを工夫し、生徒一人ひとりに対しきめ細かな学習指導を行う。	4:授業アンケートにおいて、「授業内容が理解できている」と回答する生徒が8割以上である。 3:授業アンケートにおいて、「授業内容が理解できている」と回答する生徒が6割以上である。 2:授業アンケートにおいて、「授業内容が理解できている」と回答する生徒が4割以上である。 1:授業アンケートにおいて、「授業内容が理解できている」と回答する生徒が4割未満である。	4	・年間を通して朝学を週3回実施したことによって、生徒の基礎学力が確認でき、授業での指導に生かすことができた。特に一般常識の分野は、現在の社会についての知識や時事問題などを出題することにより効果が上がった。 ・授業アンケートにおいて、「授業の内容が理解できている」の項目に対し、「よくあてはまる」が16%、「だいたいあてはまる」が68%と回答し、肯定的な回答が合計で全体の80%を上回った。	・基礎学力の定着に向けた朝学等の取組をぜひ継続してほしい。 ・少人数の定時制ならではの、一人ひとりを大切に学習指導を今後も実践してほしい。
	確かな職業観・勤労観の育成	・年間3回実施する進路ガイダンスにおいて、目的が明確で、生徒の実態に応じた内容となるよう、講師との事前打合せを綿密に行う。 ・各ガイダンス後に事後感想プリント等で生徒の振り返りを実施し、生徒の自己理解を深めるとともに、十分な生徒理解にもとづいた進路指導を推進する。	4:各ガイダンス後の生徒アンケートにおいて、「職業や勤労に関する理解が深まった」と回答する生徒が8割以上である。 3:各ガイダンス後の生徒アンケートにおいて、「職業や勤労に関する理解が深まった」と回答する生徒が6割以上である。 2:各ガイダンス後の生徒アンケートにおいて、「職業や勤労に関する理解が深まった」と回答する生徒が4割以上である。 1:各ガイダンス後の生徒アンケートにおいて、「職業や勤労に関する理解が深まった」と回答する生徒が3割未満である。	3	・今年度は1学期「ハローワークによる講演会」、2学期「労働法学習会」「卒業生に聞く会」、3学期「ビジネスマナー講習会」の4回、外部講師を招聘し、生徒の実態に応じた内容での進路ガイダンスを実施した。事後の生徒アンケートでは8割以上の生徒が「職業や勤労に関する理解が深まった」と回答し、一定の成果が見られた。各ガイダンスの時間の長さについては、約7割の生徒が「ちょうどよかった」と回答し、適切に設定できたと考えている。 ・夏季休業中に3年生の希望者2名が、2～3日間のインターンシップを体験した。これが縁で、3年生1名(三修制)の、インターンシップ先への就職内定などの効果もあった。	・生徒に目的意識を抱かせることが大事である。進路の目標が早く見出せるよう、生徒との面談を増やすなど工夫してほしい。 ・インターンシップを体験することで、アルバイトと異なる職場を生徒が見ることは非常に重要である。今後もインターンシップの取組は継続すべきである。
進路指導	進路決定率率100%	・生徒の適性と希望に応じた、進路に関する情報提供を的確に行う。 ・就職サポーターとの連携を十分図りながら、キャリアカウンセリングを行う。	4:進路決定率100%であった。 3:進路決定率80%以上であった。 2:進路決定率60%以上であった。 1:進路決定率60%未満であった。	4	・「進路希望調査」を年2回(4月・9月)実施し、生徒の進路希望をもとに、ハローワーク卒卒担当・就職サポーターとの連携を綿密に行った結果、生徒の希望通りに正規雇用による就職が内定した。進学についても、資料の取り寄せや志望先の学校訪問等による情報収集を行い、生徒の進学意識の高揚を図ったことにより生徒の希望通りの進学先が決定した。	・働きながら学ぶことは苦勞が大きいものであるが、その苦勞を味わっている生徒は、社会に出てから違ってくるはずなので、先生方も生徒への期待を胸に、指導に当たってほしい。
	規範意識の向上	「凡事徹底」重点4項目(①挨拶②時間厳守③整理整頓④授業態度)の徹底を図る。	4:生徒は4項目すべて実践できていた。 3:生徒は3項目が実践できていた。 2:生徒は2項目が実践できていた。 1:生徒は1項目しか実践できなかった。	4	・全教員の協力によって「あいさつ運動」を毎日実施し、生徒が自らあいさつをするようになった。ルール・マナーを自然に守ることのできる態度の定着が課題である。	・生徒はおおむね落ち着いた学校生活を送っているという点で、このままの状態が保てるよう指導してほしい。指示がなくても、自ら状況を考えようとする生徒が守れるようさらに成長してほしいと思う。
生徒指導	教育相談の充実による学校不適応の未然防止	「Fit」等を分析した上で個人面談を実施し、学校不適応の未然防止に努める。	4:生徒アンケートにおいて、「学校は、生徒の悩みに対し親身になって相談に応じている」に肯定的な回答をする生徒が8割以上である。 3:生徒アンケートにおいて、「学校は、生徒の悩みに対し親身になって相談に応じている」に肯定的な回答をする生徒が6割以上である。 2:生徒アンケートにおいて、「学校は、生徒の悩みに対し親身になって相談に応じている」に肯定的な回答をする生徒が4割以上である。 1:生徒アンケートにおいて、「学校は、生徒の悩みに対し親身になって相談に応じている」に肯定的な回答をする生徒が4割未満である。	4	・「Fit」を毎学期実施することにより、各担任が生徒一人ひとりの学校適応状況を詳しく把握し、学級運営に生かすことができた。 ・特定の生徒の出席率に課題が残った。学習指導、生活指導、進路指導、健康指導等、あらゆる面からの総合的な指導、支援が求められる。	
	規則正しい生活リズムの確立	授業や全体指導の場を通じて、生活規律の確立の重要性を理解させるとともに、養護教諭との連携を図り、気になる生徒への健康相談を適宜実施する。	4:生徒アンケートにおいて、「年間通じて規則正しく生活できた」と回答する生徒が8割以上である。 3:生徒アンケートにおいて、「年間通じて規則正しく生活できた」と回答する生徒が6割以上である。 2:生徒アンケートにおいて、「年間通じて規則正しく生活できた」と回答する生徒が4割以上である。 1:生徒アンケートにおいて、「年間通じて規則正しく生活できた」と回答する生徒が4割未満である。	3	・生徒は午前中からアルバイトをおこなって心身とも疲れている上、携帯電話等で夜更かしをして、規則正しい生活があまりできていない状態である。全体的に体調不良の生徒が多く、健康面で気になる生徒に対し丁寧な健康相談・アドバイス等を実施しているが、改善されていない状況である。	・規則正しい生活について、生徒はアンケートでよく自分の生活を振り返っている。アルバイトを経験しながらの通学は大変だと思うが、その苦勞を乗り越えてこそ定時制に通う価値が出てくるので、その点を生徒に十分伝えて指導に当たってほしい。
業務改善	学校の組織力向上	毎学期末に、キャリア教育の視点から各分掌の取組の進捗状況や生徒の実態について全体で振り返り、その都度取組の修正・改善を図る。	4:すべての取組が改善しつつ行われた。 3:ほとんどの取組が改善しつつ行われた。 2:改善しつつ行われた取組はあまりなかった。 1:改善しつつ行われた取組はまったくなかった。	3	・「キャリア教育の充実」、とりわけ「進路意識の高揚・社会性の育成」に焦点を当てて各分掌が取組を進め、毎学期末に進捗状況等を全体で振り返ることによって、修正や改善を図るよう努めた。少しずつであるが、教員間の意思統一は進んでいる。	・取組のねらいをしっかりと定め、理解して、先生方が一丸となって生徒のために実践してほしい。意思統一や学校行事の早めの準備等、以前の状態からは少しずつ改善されつつあるということなので、今後に期待したい。
	業務の効率化・改善	学校行事等を時間的な余裕をもって早めに企画立案するとともに、実施後の振り返りを行い、より教育効果が上がるよう改善点を見出す。	4:すべての行事で早めの企画立案がなされ、振り返りも行われた。 3:ほとんどの行事で早めの企画立案がなされ、振り返りも行われた。 2:早めに企画立案がなされ、振り返りが行われた行事はあまりなかった。 1:早めに企画立案がなされ、振り返りが行われた取組はまったくなかった。	3	・ほとんどの学校行事で企画・立案を早めに行うことができたものの、生徒会主催のいくつかの行事では、生徒の意見を取り入れるのに時間がかかるなどして、企画・立案がやや遅れることがあった。 ・振り返りについては多くの行事で実施できず、改善点の把握が十分できなかった。	
	情報発信	・「下商定時制だより」毎学期発行 ・「下商Q&A」リニューアル ・学校見学の案内を各中学校へ配付	4:学校見学希望者数が昨年度を上回った。 3:学校見学希望者数が昨年度とほぼ同数であった。 2:学校見学希望者数が昨年度をやや下回った。 1:学校見学希望者数が、昨年度を大きく下回った。	2	・学校見学希望者数は昨年度を上回ったことはなかったが、「下商定時制だより」の発行、中学校への学校見学の案内送付等を行い、本校定時制の魅力や特色の周知を図った。	
	本校定時制の魅力や特色等の情報発信					

6 学校評価総括(取組の成果と課題)	
【学習指導】	・週3回の朝学の実施により生徒の基礎学力が確認できたことで、学力差に対応した各教科での学習指導の充実が図られた。また、一般常識に関する知識や関心が深まった。 ・授業アンケートの結果を検証することにより、各教員の「わかる授業」を展開する意識は高まった。今後は、生徒の理解度が高まる効果的で具体的な指導方法の探究が課題である。
【進路指導】	・外部講師によるキャリア教育を各学期1回程度(年4回)実施した。特に「卒業生に聞く会」では、先輩のアドバイスをもとに進路意識の高揚を図ることができた。「生徒減に伴うキャリア教育の再構築」、及び「年2回実施の進路希望調査をもとにした生徒への細やかな情報提供」が、更なる進路意識の高揚に向けた課題である。
【生徒指導】	・大半の生徒は、「あいさつ運動」等での声かけ・指導等により、基本的な礼儀等が定着してきている。生徒全体にルールやマナーを守る態度が浸透しており、落ち着いた雰囲気の中で学校生活が送られている今、生徒の社会性や主体性をさらに高めることが課題である。
【保健体育】	・養護教諭と連携しながら、生徒の体調面・精神面等の様子を観察した上でアドバイスを行うことができ、生徒は安心感をもって学校生活を送ることができた。来年度は、日常生活全般における生活態度の改善を図るため、保護者との連携を強化したいと思う。

7 次年度への改善策	
【学習指導】	・来年度も引き続き朝学を実施し、生徒の基礎学力の向上に努めるとともに、すべての教科を通じて小テストやアンケートを実施し、生徒の理解度を常にチェックしながら授業を展開する。
【進路指導】	・生徒減に伴い、外部講師招聘によるキャリア教育の精選を行うとともに、3年生希望者を対象としたインターンシップ等の体験的な活動を積極的に進め、生徒の進路意識をさらに高めたい。 ・キャリア教育の取組の効果を上げるために、教員側が高い意識をもって指導を行う。
【生徒指導】	・礼儀やルール・マナーの持つ意味をしっかりと理解させながら、基本的な生活習慣の指導を継続的に進め、生徒の社会人基礎力・規範意識を高めていきたい。 ・生徒会役員による定期的な話し合いを行うことにより、主体的で計画的な生徒会活動を推進し、生徒の学校生活への意欲を高めていきたい。
【保健体育】	・規則正しい生活リズム確立させるために、養護教諭による健康教育の機会を増やす。